



仏教の花

Thematic Exhibition

Floral Motifs in Buddhism

Lotus and *Hōsōge* Flowers

2026年6月23日(火)～8月30日(日)

本館4室

蓮と宝相華



11 紙胎漆塗彩絵華籠

Flower Basket



21 金銅羯磨
Double Vajra



12 金銅蓮華形磬

Ritual Gong (*Kei*) Shaped Like a Lotus Flower

仏教美術には、こぼれんばかりに花のモチーフが用いられています。その中でも蓮は、仏教が誕生したインド以来、仏教と深く結びついてきた最も重要な存在で、様々なところに様々なかたちで用いられています。

また、仏教ならではの花に宝相華があります。牡丹や芙蓉、蓮華などをもとにして、中国・唐代に成立した豊麗な唐花文様が仏教に採り入れられて展開したもので、蓮とともに東アジアの仏教美術を華やかに彩ってきました。

本特集では、時に大胆に、時に繊細に、仏教美術に色を添えるこれらの花に注目し、豊かに装飾が施された工芸品を題材として、その魅力に迫りたいと思います。一見どこに花のモチーフが使われているかわからないような作品にも、目を凝らせば、きっとそこかしこに美しい花を見つけることができるでしょう。

細部まで厳かに飾ることを「荘厳」といいますが、荘厳に重きを置く仏教工芸の園に花開いた豊饒な世界を、この機会にたっぷりとお楽しみください。

Buddhist art is richly adorned with floral motifs. Among them, the lotus flower holds the most significance, appearing on many Buddhist implements and objects in diverse forms. Another typical floral motif that is featured uniquely in Buddhist art is the *hōsōge* flower. Originating in Chinese floral motifs from the Tang dynasty (618–907), the *hōsōge* flower, together with lotus flowers, was adopted into Buddhist designs, enriching the art of Buddhism. We invite you to immerse yourself in the charm of these floral motifs that bloom magnificently on Buddhist art objects.

仏教と蓮 Buddhism and Lotuses

蓮は、生命の発生と豊かさの象徴として、インド美術では古くから使われてきたモチーフです。泥水どろみずの中から清らかな花を咲かせることが、汚れた世の中にあっても戒律という決まりを守って清らかに生きることを説いた仏教の教えと合致し、仏教美術に広がっていったと考えられます。また、古代インドでは、蓮は光の象徴としても信仰されてきましたので、仏の放つ光を表すため使われるようになったと考えられます。

仏法を象徴する蓮 Lotus Symbolizing Buddhist Teachings

蓮は仏法を象徴するものとして、仏教美術に欠かせないモチーフです。仏教工芸には実に多くの蓮の意匠あひが溢れています。蓮そのものをかたどった道具や、蓮が大事なところに表された道具、蓮が随所に散りばめられた道具など、様々な創意工夫が凝らされて、実に多種多様な造形世界が、そこには広がっています。時代や使われる場所、用途によっても蓮はかたちを変えて表されています。蓮のかたちを楽しみ、また隠れた蓮を探しながら、蓮池ならぬ蓮の「沼」ひたに浸ってみてください。



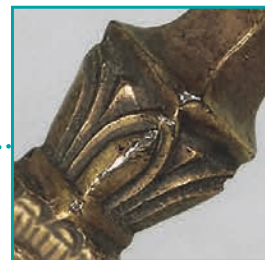
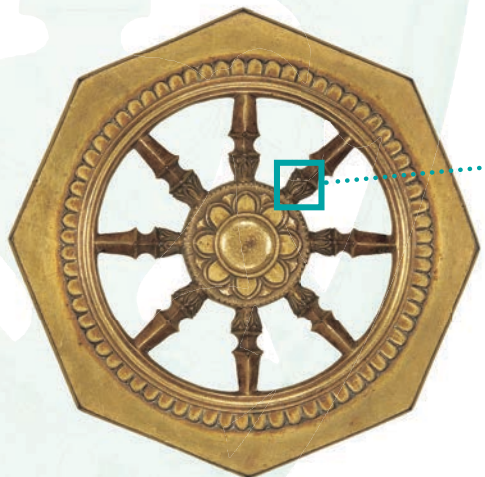
14 銅鰐口
Gong (Waniguchi)
鰐口では撞いて鳴らす中央の撞座にだいたい蓮が表されており、仏の教えが音とともにそこから広がっていくかのようです。



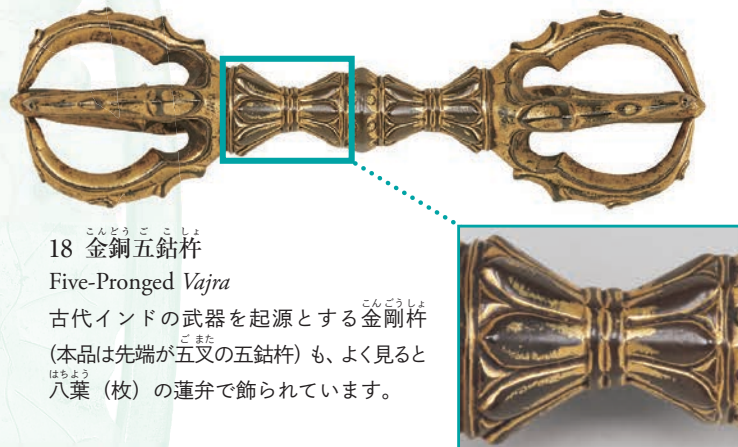
16 銅蓮華形柄香炉
Lotus-Shaped Ritual Incense Burner with a Handle
持ちやすいように柄を付けた香炉です。香を焚く火炉は蓮華、柄は茎をかたどり、火炉の脇には葉が添えられています。



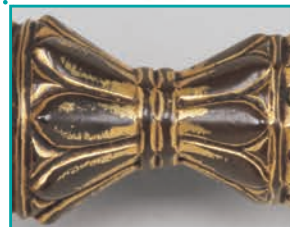
17 金銅五鈷鈴
Ritual Bell with a Five-Pronged Vajra
密教の祈禱に用いられる金剛鈴（本品は先端が五叉の五鈷鈴）は、持ち手のところが蓮華の意匠で飾られています。



20 金銅輪宝
Dharma Wheel
輪宝も武器を起源とする密教法具です。中心には八重の八葉蓮華が置かれ、輻（スポーク）にも蓮弁が飾られています。



18 金銅五鈷杵
Five-Pronged Vajra
古代インドの武器を起源とする金剛杵（本品は先端が五叉の五鈷杵）も、よく見ると八葉（枚）の蓮弁で飾られています。



仏を飾る蓮 Lotus Adorning Buddhist Gods

蓮には仏を飾る役割があります。仏教の尊像はたくさんの蓮によって飾られています。仏教の尊像では、体から発せられる光が光背こうはいとして表現されますが、頭の後ろに当たる頭光ずこうは蓮華をかたどり、体の後ろに当たる身光しんこうの下辺は光脚と呼ばれ、蓮弁が表されます。また、仏教の尊像が乗る台座は、多くは仰向け蓮華をかたどっています。そして仏教の尊像は、時には天から降ってくる蓮弁によっても飾られます。仏は何重にも蓮によって飾られるのです。



4 金銅透彫光背
Aureole for a Buddhist Statue
仏像の光背では、頭の後ろの頭光に開いた蓮華があしられ、下端にも光脚と呼ばれる蓮弁の装飾が施されます。



5 金銅火焰宝珠形舍利容器
Buddhist Reliquary with a Flaming Jewel
舍利を安置する容器です。宝珠形の容器に納めた大切な舍利を奉るように、上から下に幾重にも蓮台が重ねられています。



3 俱利伽羅龍葺絵経箱
Sutra Box with a Dragon Coiled around a Sword
中央に配置された蓮台に乗る俱利伽羅龍剣（不動明王の化身）を讃えるように、周囲にひらひらと蓮弁が散っています。

浄土に咲く蓮 Lotus Flowers Blooming in the Pure Land

仏は清浄な世界である浄土を住まいとしています。なかでも阿弥陀如来の極楽浄土は蓮と深く結びついています。宮殿の前に広がる池には蓮が咲き、天には蓮華が舞っています。インドに起源する仏教では、花が咲き、鳥が歌う熱帯の楽園こそが浄土として観念されました。そのイメージは東アジアへも受け継がれ、蓮は浄土を彩る花としても重視されました。浄土を再現した仏堂にもそのイメージは受け継がれ、堂内は蓮をかたどった仏具や壁画で飾られました。



8 白銅蓮池文磬
Ritual Gong (Kei) with a Lotus Pond
日本で普及した山形の磬です。中央の撞座に蓮華が置かれ、左右には極楽浄土を象徴する蓮池が表されています。



10 金銅蓮華文華鬘
“Flower Garland” with Lotus Flowers
華鬘は仏堂内に懸けて飾る仏具です。華瓶に生けた蓮があしらわれており、装飾と供養を兼ねているかのようです。

空想の花——宝相華 *Hōsōge : Imaginary Flowers*

宝相華という花は実在せず、空想上の存在ですが、仏教美術に欠くことのできないモチーフで、日本では奈良時代から用いられるようになりました。中国・唐代に成立した唐花文様が仏教化したもので、牡丹や芙蓉、蓮華などの大型で豊かな花が組み合わさって創造されたと推測されます。これにローマやペルシアから伝えられた唐草が加わって宝相華唐草となり、唐草のように勢よく広がっていったと考えられます。仏教美術では文様として、空間を埋めるためよく用いられています。



24 木製彩色迦陵頻伽文華鬘

“Flower Garland” with Kalaviṅka

奈良時代以来の伝統を汲む紺丹緑紫の配色（青と赤、緑と紫の組み合わせ）で描かれた宝相華が華やかです。



23 金銅尾長鳥文華鬘

“Flower Garland” with Long-Tailed Birds

無限の広がりをもつ唐草で宝相華を繋いだ文様と異国的な鳥が合わせられ、仏教の説く楽園（浄土）がイメージされます。

展示作品リスト ●：国宝 ○：重要文化財 ■：本リーフレットに掲載の作品

指定	名称	作者・出土・伝来等	時代・世紀	所蔵／当館所蔵は列品番号（寄贈者）
1 ●	金銀鍍宝相華唐草透華籠		平安時代・12世紀	滋賀・神照寺
2 ●	金銀鍍宝相華唐草透華籠		南北朝時代・14世紀	滋賀・神照寺
3 ●	俱利迦羅龍蒔絵経箱		平安時代・12世紀	奈良・當麻寺奥院
4 ■	金銅透彫光背		鎌倉時代・13世紀	E-19895
5 ○	金銅火焰宝珠形舍利容器		鎌倉時代・13～14世紀	E-15502
6 ■	金銅三昧耶形五鈷鈴		江戸時代・18世紀	東京・護国院
7 ●	金銅蓮華唐草文磬		平安時代・12世紀	京都・禪林寺
8 ○	白銅蓮池文磬	奈良県吉野郡天川村金峯山出土	平安時代・12世紀	E-19890
9 ○	金銅種子華鬘		鎌倉時代・13世紀	奈良国立博物館
10 ○	金銅蓮華文華鬘		室町時代・15世紀	滋賀・神照寺
11 ■	紙胎漆塗彩絵華籠		鎌倉時代・13世紀	H-4289
12 ■	金銅蓮華形磬		鎌倉時代・13世紀	E-15271
13 ■	銅孔雀文磬		室町時代・15～16世紀	個人蔵
14 ■	銅鰐口		江戸時代・元禄12年（1699）	E-19938
15 ●	金銅能作生塔		鎌倉時代・13世紀	奈良・長福寺
16 ■	銅蓮華形柄香炉		鎌倉時代・13世紀	E-19803（香取秀治郎氏寄贈）
17 ■	金銅五鈷鈴		平安時代・12世紀	E-15368
18 ■	金銅五鈷杵		平安時代・12世紀	E-19829
19 ○	金銅蓮華唐草文金剛盤		平安時代・12世紀	E-19830
20 ■	金銅輪宝		鎌倉時代・13世紀	E-20185
21 ■	金銅羯磨		鎌倉時代・13世紀	E-15504
22 ■	金銅六器		鎌倉時代・13世紀	E-15451
23 ■	金銅尾長鳥文華鬘		鎌倉時代・13世紀	E-15536
24 ○	木製彩色迦陵頻伽文華鬘	和歌山県丹生都比売神社伝来	室町時代・16世紀	E-14729
25 ○	金銅灌仏盤		平安時代・12世紀	E-14286
26 ■	金銅宝相華唐草文経箱（模造）	山脇洋二模 原品：滋賀・延暦寺所蔵（叡山横川如法堂埋納）	昭和13年（1938）頃 原品：平安時代・長元3年（1031）	E-19551